

## 【クラス9位完走、2戦連続のポイントを獲得】

鈴鹿で見た HIRATA-G YUK AMG GT4 の堅実な走り

### ■ Introduction

2026年4月18日・19日、鈴鹿サーキットにて「ENEOS スーパー耐久シリーズ 2026 Empowered by BRIDGESTONE 第2戦」が開催された。今大会は5時間の耐久レースで、9つのクラスに46台、ST-Zクラスには最多の12台がエントリーした。

### ■ Qualifying

公式予選は晴天で心地良く乾いた風の吹く18日午後に行われた。AドライバーとBドライバー、それぞれのベストタイム合算で決勝のスタート順位が決まる。まずAドライバー予選では、YAMATATSUがタイムアタックを担当。2分12秒413をマークして、ST-Zクラス8番手につけた。続くBドライバー予選では、黒澤がステアリングを握り2分11秒357でクラス10番手。2人のタイム合算は4分23秒770となり、総合15位クラス8位から決勝での追い上げを目指した。

### ■ The Race

決勝レースは途中で3度のドライバー交代を伴うピットストップの義務があり、Aドライバーの最低乗車時間は1時間15分と定められている。薄曇りで気温25°C、路面温度35°Cと初夏のような天候のなか、12時ちょうどにフォーメーションラップがスタートし、12時04分に5時間レースが始まった。

スタートを担当した黒澤は、オープニングラップで1台をかわすとさらにライバルとバトルを繰り広げ、スタートから1時間経過時にはクラス5位へポジションアップを果たした。黒澤は1時間20分が経過した37周でピットイン。ここでYAMATATSUに交代した。

YAMATATSUは走り慣れた鈴鹿でミスなく走行を続け7位をキープし、1時間15分の義務乗車時間をきっちりクリアして37周を走り切り、7位で74周目にピットイン。ここで再び黒澤がコックピットに収まった。ピットインのタイミングもあったが、4時間が経過した時点でクラス5位へ順位を戻し危なげなく周回。レースも残り1時間を切った108周目にピットイン。アンカーのCOLD MAXにバトンをつないだ。

COLD MAXも鈴鹿は走り慣れており、自分のペースを守り走行を続けた。同じステイ

ントにプロドライバーを起用した車両があり、COLD MAXは無理なバトルを避けて堅実に周回。9位で129周を無事走りきり5時間レースのチェッカーを受けた。

今回もトラブルもペナルティもなく、耐久レースに慣れることができた。さらに2戦連続でポイントも獲得することができた。

### ■ Team Voice : 黒澤 治樹

「同じクラスでも速い車両があり予選でも1~2秒近い差があるので、速さを磨いていかないといけないのかなと思います。今日は、全員がミスなく頑張りました。メルセデスAMGは耐久性に優れ、ジェントルマンドライバーに乗りやすいクルマなので、次の24時間レースではコンスタントに走れば結果がついてくると 생각합니다。今回はきっちりレースもできたので、もっとレベルアップしていきたいなと思います」



### ■ Next

次戦、第3戦は、6月5日~7日に富士スピードウェイにてシリーズ最大のイベントである富士24時間レースが行われます。チームはドライバーを追加し、日本で最も長いレースに初めて臨みます。